

## 多度地区小中一貫校整備事業 第4回開校準備委員会 会議概要

開催日時 令和4年3月26日(土) 13:30~15:30

開催場所 多度まちづくり拠点施設 第4教室

出席委員 22名中 16名

### 1. 開会

#### ・ 事業報告

<委員>用地交渉の進捗により事業スケジュールが遅れることは理解できる。しかし、多度中小学校に合流して開校することは、通学の安全面からも不安がある。新たな校舎等が建設されてから合流することに、どのような問題があるのか。新校舎完成が遅れた場合の対応について、開校準備委員会に諮られていない。

<委員>市の見通しが甘いために、地域が振り回されている。短期間に2回の引っ越しを強いられることは、子どもにとって健全なこととは思わない。開校準備委員会を臨時に開催して、開校を1年遅らせるべきか、段階的に開校すべきかを相談するべきである。段階的開校には絶対反対である。

<委員>子どもが一番という考えですすめてほしい。令和7年4月開校ありきの方針は、子どもファーストではない。子どもをないがしろにしないでほしい。

<委員>多度中小学校に合流して開校した場合、たとえ校名が変わったとしても、子どもや保護者にとっては吸収された思いになる。多度青葉小学校が開校したときも、既存の校舎を使用したことやバス通学を強いられたこともあり、アウェイ感や反発を抱いた子もいた。新たな学校としてスタートするのならば、みんなが同じスタートを切れるようにしてほしい。分離型での段階的開校は、子どもも教職員も二度手間になる。1年遅らせてでも、余裕を持って進めてほしい。

<委員>用地の取得が遅れているのに開校を遅らせないのは理解できない。現場の教職員にもきちんと説明してもらいたい。

<委員>段階開校だけに限るのではなく、開校自体を延期する可能性について、教育委員会が地域に説明する場を設けてほしい。

<教育長>開校準備委員会の意義を損なうことは考えていない。

<委員>かわら版No.21の「小中一貫校は段階的に開校します」という記載は、断言しているように見える。地域に訂正するべき。新聞記事の内容も、事実と違うであれば訂正するべき。

<教育長>新聞記事が誤りとまでは考えていない。議会答弁の中で、既存の学校を令和7年3月に閉校することは、「段階的開校という手段をとるならば」という仮定の中で話したものである。

<委員>新校舎等の完成が間に合わなかった場合の対応を、この場で決めた方がいいのではないか。

<委員>新校舎の完成が何月になっても、開校を1年延期にすればよいのではないか。

<委員>今までの開校準備委員会では、施設一体型の学校となる前提で、小中一貫校とするのか義務教育学校とするかの協議を進めてきている。

<教育長>校種については決まっていない。最終的には教育委員会で判断する。本事業は、子どもの人数の減少による対応策の一つとしての政策でもある。

<委員>子どもの人数減少がこの事業の始まりというものではない。市の進める一貫教育の効果をより得られるために一貫校を建設するという目的であるはず。

## 2. 議事

### (1) 経過報告

教育指導部会より <報告者：西山 広 委員>

地域連携部会より <報告者：伊藤綾子委員>

### (2) 「子どもによる提案書」の審査について

下記の審査基準をもとに、「夢部門」と「実現可能部門」の2部門について審査した。

- ① 誰もが思いつくものでない、独自性のある提案であること。
- ② 学校の主役である、子どもたちが活動できる場所であること。
- ③ 「学校」という目的に沿った場所であること。
- ④ 学校に通うのが楽しくなる「ワクワク感」が生まれる場所であること。

### (3) 義務教育学校で開校することについて

意見交流

#### 【Aグループ】

- ・結論としては義務教育学校で良いのではないか。
- ・9年間の壁をなくすこと・9年間を通してみていくことで、学力や生活の面においても有効。
- ・情報の共有をしやすいのがメリット。
- ・義務教育学校のメリット・デメリットをもう一度丁寧に説明して欲しい。
- ・デメリットに対してどのような手立てをとっていかをセットで考えていくと良い。
- ・人的な配置の充実のため、軌道に乗るまでは加配をたくさんつけてもらいたい。
- ・義務教育学校でいくのであれば、年度の初めから開校すべきである。

#### 【Bグループ】

- ・検討のまとめの内容は、話し合いの中で出てきた意見だけであり、今後の方向性、今後どうしていくのかという中身とはなっていない。
- ・義務教育学校にしていくのであれば、現場の不安もあるので、教職員の理解も図りながら進めて

いくべきである。

#### 【Cグループ】

- ・義務教育学校が良いのではないかという結論。あくまでも建物ができてからどうするかという前提。
- ・指揮系統が1つであることで教員が動きやすくなり、子どもにも良い影響が出ると思われる。
- ・ツートップであることには不安要素がある。これまでやったことがない事なので、人選は大切。
- ・新しい学校について知ってもらう中で、働きたい教員や地域に引っ越したい人が出てくると良い。

前回までの検討もふまえ、「義務教育学校としての開校が望ましい」という提言（案）が示された。

#### （4）「子どもによる提案書」の審査結果

審査の結果、同得点の作品があり、2部門合わせて最優秀賞3点、優秀賞3点を選出した。入選16点も併せて各校で表彰を行う予定である。

### 3 その他